

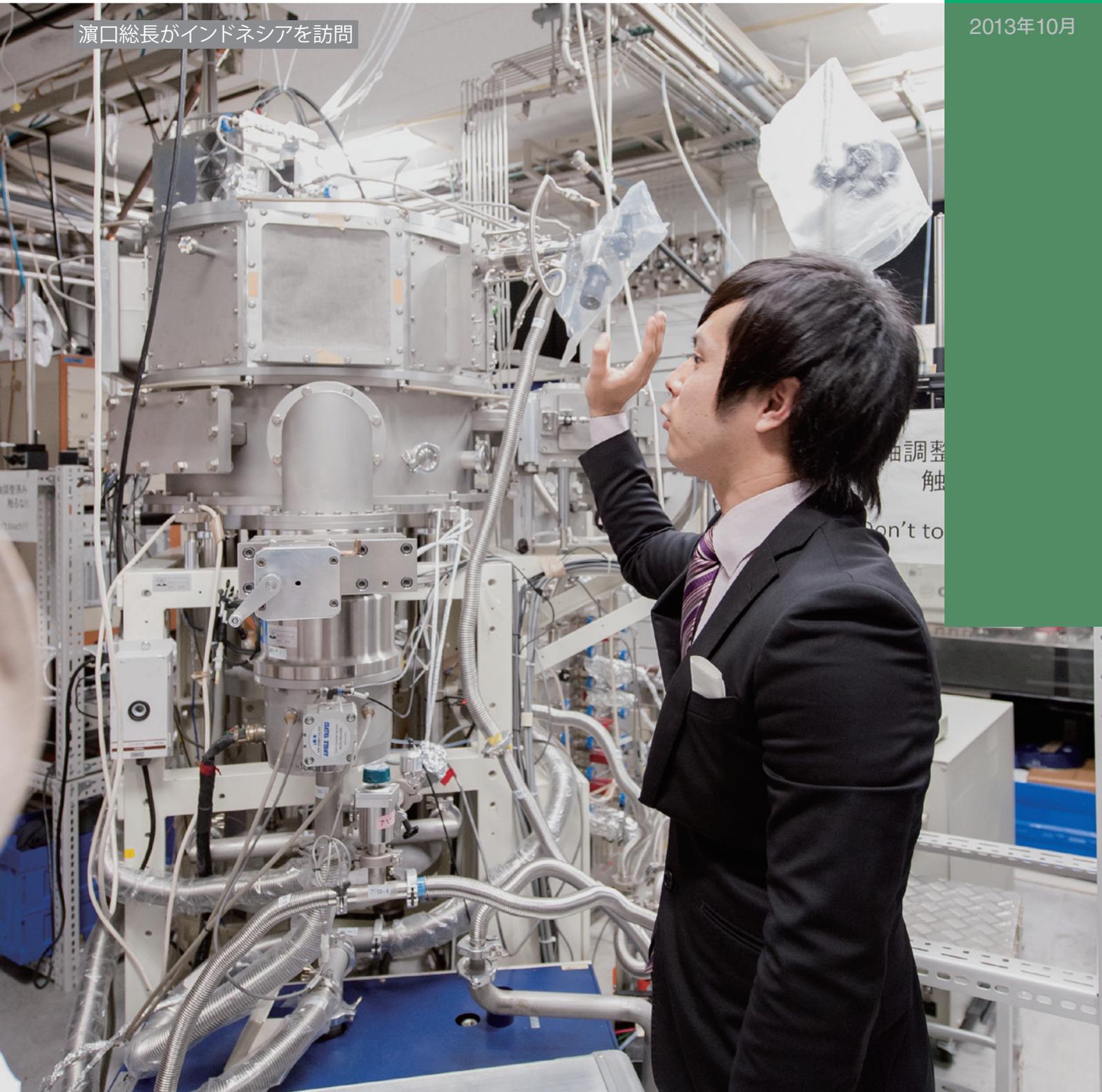
# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.245

2013年10月

濱口総長がインドネシアを訪問



## 目次

### ●ニュース

- 濱口総長がインドネシアを訪問 3
- 第24回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2013を開催 4
- 「フエ・名古屋大学内視鏡トレーニングセンター」開所式等を挙行政 5
- あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーを開催 5
- 「企業と博士人材の交流会」を開催 6
- 重要文化財「馬場家住宅」公開講座を開催 6

### ●知の未来へ

- アメリカにおける児童虐待への対応と里親・養子システム 7
- 原田 綾子（大学院法学研究科准教授）

### ●知の先端

- 私たちの体を守るために頑張っている皮膚、その多様なバリア機能 8
- 秋山 真志（大学院医学系研究科教授）

### ●学生の元気

- 第62回東海地区国立大学体育大会 一男子3位、女子6位一 10

### ●部局ニュース

- テクノ・フェア名大2013を開催 11
- 自然科学研究機構生理学研究所との基本協定書調印式等を挙行政 12
- 医学部・大学院医学系研究科外部評価委員会を開催 12
- テクノサイエンスセミナー2013を開催 13
- 第2回「先進科学塾@名大」を開催 13
- 平成25年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催 14
- 発達障害児のライフサイクル支援セミナーを開催 14
- 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトキックオフシンポジウムを開催 15
- 平成25年度防災・減災カレッジを開催 15
- 高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催 16
- 展示会「珍品・逸品・新収品」を開催 16
- ミクロの探検隊を開催 17
- 第2回地球教室を開催 17
- 第51回博物館コンサートを開催 18

### ●受賞者一覧

- 本学関係の新聞記事掲載一覧 平成25年8月16日～9月15日 24

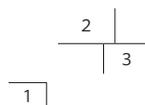
### ●イベントカレンダー

- ちょっと名大史 27

- 学部の誕生と草創期⑨ 一 情報文化学部 一 32

# 濱口総長がインドネシアを訪問





- 1 同窓会支部設立総会で支部旗を授与する総長
- 2 総長（右）とハビビ元大統領一行との記念撮影
- 3 パジャジャラン大学卒業式で紹介を受ける総長

濱口総長が、8月27日(火)から8月31日(土)までの5日間、インドネシア共和国を訪問しました。この訪問は、インドネシアの関係機関への訪問、本学名誉博士のバハルディン・ユスフ・ハビビ元大統領との懇談、全学同窓会インドネシア支部の設立総会への出席を目的としたものです。

28日(水)は、バンドンにおいて、午前中はバンドン工科大学長を訪問し、両大学の交流について意見交換を行いました。午後からは、パジャジャラン大学を訪問しました。同大学では、学長との懇談後、各学部長、研究者等と意見交換を行い、本学との共同研究、大学院プログラム等の具体的な提案があり活発な議論が行われました。懇談会後には、卒業式にゲストとして参加し、荘厳な中にも華やかな卒業式を体験しました。総長は演壇の前列に座り、最後にゲストとして紹介されました。卒業式の最後には、10数名の卒業生の代表から両親たちに花束が渡され、感涙にむせんでいました。

30日(金)は、ジャカルタにおいて、午前中は高等教育総局を訪問し、ジョコ・サントソ総局長と懇談しました。ジョコ総局長は、昨年本学で行われた第1回日本・インドネシア学長会

議に参加しており、第1回学長会議での成果及び第2回学長会議の開催について言及しました。その後、在インドネシア日本大

使館を訪問し、鹿取克幸特命全権大使と、現在の両国の関係、本学でのインドネシアに対する取り組み及び今後の展望について懇談を行いました。大使からは、本学のインドネシアにおける学術分野での交流に大変期待しており、全面的に協力したい旨の発言がありました。

午後からは、バハルディン・ユスフ・ハビビ元大統領を表敬訪問しました。ハビビ元大統領は、第1回日本・インドネシア学長会議のため来学し、長年にわたる航空工学者及び政治家としての優れた功績により、「勇気ある知識人」として、本学から名誉博士の称号を授与されています。昼食会を兼ねた懇談会では、総長より第1回学長会議参加への感謝の意が伝えられました。

夕方には、全学同窓会インドネシア支部の設立総会が開催されました。設立総会には本学のインドネシア人元留



学生や帰省していた現役のグローバル30留学生、現地に駐在している日本人卒業生など総勢60名以上が駆けつけ、また、在インドネシア日本大使館から進藤雄介公使らの参加がありました。設立総会は、全学同窓会連携委員会委員長の中野富夫法学研究科准教授の司会で行われ、冒頭、総長より本学の160名を超えるインドネシア人卒業生、修了生のネットワーク、精神的支えとなる同窓会支部の設立を大変喜んでいる旨のあいさつがありました。その後、全学同窓会代表幹事の伊藤義人工学研究科教授のあいさつに続いて、総長から、支部認定書、支部旗及び記念品がインドネシア同窓会支部長のリザル・インドネシア経済担当調整大臣府次官に贈呈されました。総会は終始和やかな雰囲気で行われ、卒業生同士、改めて絆を深める機会となりました。

## 第24回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2013を開催



実験の様子

第24回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2013が、8月18日(日)、豊田講堂において開催されました。

これは、英国王立研究所が、毎年クリスマス時期のロンドンで開催する子ども向けの科学実験講座と同じ内容の講座を、ロンドンで開催した翌年に日本で開催しているものです。同講座は平成2年から毎年夏に開催しており、今年の本学で行われました。

まずはじめに、渡辺理事から開催のあいさつがあった後、ピーター・ウォザース ケンブリッジ大学化学学部教授をメインゲストに迎え、「現代の錬金術師」と題し、炎や水、空気に秘められた「化学」の世界を驚きの実験の数々でひも解きました。綿で作成した元素記号の文字フレームに、メタノールで溶かしたアルカリ金属塩（リチウム、ナトリウム、カリウム、ルビジウム、セシウム）をかけ、燃やして様々な色を発生させたり、ダイヤモンドを燃やして二酸化炭素の発生を確認したり、天秤で子どもと金塊の重さを比べるなどのショーが行われ、参加した650名の興味を集めました。



ピーター・ウォザース教授と参加者

その後、特別講演として、篠原久典理学研究科長が研究しているフラーレンの実験講座も開催され、会場を大いに盛り上げました。

また、豊田講堂ホワイエには、日本ガイシ株式会社と丸紅株式会社が体験ブースを出展しました。家庭でできる12種類の科学実験（雑誌Newton2012年8月号～2013年7月号に掲載）や、アルミニウム、銅、銀、金の重さの違いを体験するなどして、参加者は夏の日を楽しんだようでした。

なお、今回の実験内容は、10月27日(日)15:00から16:00 BS日テレで放送されます。



講演する篠原理学研究科長



豊田講堂ホワイエの様子

## 「フエ・名古屋大学内視鏡トレーニングセンター」開所式等を挙

「フエ・名古屋大学内視鏡トレーニングセンター」開所式が、9月12日(木)、ベトナム フエ医科薬科大学において挙行されました。式典は開所式に先立ち、後藤秀実医学系研究科消化器内科学教授にフエ医科薬科大学名誉教授の授与が行われました。後藤教授のあいさつの後、渡辺理事が本学とフエ医科薬科大学との交流の経緯と今後の発展に



式典での記念撮影

ついて述べました。その後、センターに移動し、フエ医科薬科大学及び本学関係者によるテープカットと除幕式が行われ、続いて、センターの主要設備の見学会が実施されました。

13日(金)には、消化器内視鏡ワークショップが開催され、センターにおいて本学医師が内視鏡の実践的な実技指導を行いました。

本学とフエ医科薬科大学とは、肝炎の共同研究を行うなど関係が深く、昨年10月に医学部・大学院医学系研究科が部局間学術交流協定を締結し、ベトナムの消化器内視鏡医の育成と病院の医療機器を整備することにより、ベトナムの消化器医療の強化を目的としたプロジェクトに取り組んでいます。同プロジェクトにより内視鏡技術の実践的な指導のため医師を派遣し、日本の技術の習得のためフエ医科薬科大学から医師を迎えるなど交流も進んでいます。

今回のセンターの開所により、医療機器の整備が強化され、先進的な内視鏡技術を駆使した検査を行うことが可能となりました。

今後も継続的に医師の人材交流が行われ、ベトナムの人材育成支援と地域医療の改善が一層進められます。

## あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーを開催

あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーが、8月3日(土)、8月31日(土)、9月7日(土)、愛知県の各会場において開催されました。同セミナーは、同年度にスタートした「あいちサイエンスフェスティバル」の通年企画として、サイエンスと社会の関係を考え、サイエンスカフェの実践能力を獲得することを目的に平成23年度から開



講義する佐久間氏

催しています。

8月3日(土)は、ジュンク堂書店ロフト名古屋店において、佐久間元成愛知県自然環境課技師が、9月7日(土)には小牧商工会議所において、間下なぎさ同課技師が「生態系ネットワークをつくる！～人と自然が共生するあいち～」と題し、平成22年に名古屋で開催された生物多様性条約第10締約国会議(COP10)で決まった「愛知ターゲット」の実現を目指した愛知県独自の行動戦略と、現在の取り組み状況を解説しました。

8月31日(土)には、ジュンク堂書店ロフト名古屋店において、小出重幸日本科学技術ジャーナリスト会議会長が「英国のサイエンスコミュニケーション～科学の信頼をどう取り戻したか～」と題して講義しました。8月に豊田講堂において行われた英国科学実験講座クリスマス・レクチャーや英政府の科学顧問制度などを紹介し、狂牛病や福島第一原発事故への日英政府の対応を比較しました。

同セミナーは「JST ネットワーク形成地域型」と「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」で展開しており、8回の座学系セミナーなどの開講を予定しています。

## 「企業と博士人材の交流会」を開催

「企業と博士人材の交流会」が、8月31日(土)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて開催されました。この交流会は、博士課程教育リーディングプログラムの「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」、「PhD プロフェッショナル登龍門」、「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」及び社会貢献人材育成本部ビジネス人材



企業の説明を聞く学生の様子

育成センターと学生支援課就職支援室の企画で実施しました。

第1部では本学の「博士課程教育リーディングプログラム」に在籍する博士課程の学生等41名が、22社の企業に対して、ポスター形式で自らの研究成果や自己PRについてプレゼンテーションを行いました。発表した学生は、企業の方から様々なアドバイスを心得、今後の研究の方向性や自己PR方法について学んだようでした。

第2部では、博士人材の採用を希望する企業25社に対して、81名の博士課程後期課程の学生やポストドクター等が参加しました。最初に、全企業がプレゼンテーションを行った後、学生が興味ある企業のブースを訪れました。来年度以降に採用したい人材のニーズを説明する企業、即戦力としてすぐに採用したい意向を見せている企業など、多様な企業ニーズと、自らの希望を真剣にマッチングしようとしている学生の姿が印象的でした。

この交流会参加者は、企業と博士人材、お互いの考え方や意識を深める良い機会になったと思います。今後、博士人材が社会で活躍できる場が創生されるとともに、新しい創造に繋がっていくことが期待されます。

## 重要文化財「馬場家住宅」公開講座を開催

重要文化財「馬場家住宅」公開講座～遺産の魅力～が、9月14日(土)、長野県松本市中央公民館において開催されました。重要文化財馬場家住宅研究センターの企画で松本市教育委員会と共催で行われ、歴史や遺産に意識の高い市民ら54名が参加し、熱心に聴講しました。

同講座は、松本市教育委員会と同センターとの間で締結



講演する中川氏

された文化・学術活動及び地域貢献に係る連携に関する覚書に基づき、学術研究成果の社会還元と地域連携を図るために企画され、松本市立博物館の協力を得て実現したものです。今回は、松本地域にある有形・無形の遺産が持つ魅力をテーマに行われました。

最初に、吉江 厚松本市教育長が、松本地域における研究の発展と市民への還元は、学都を謳う松本市にとって大変有意義であると述べました。続いて、特別講演として歴史小説家でもある中川完治松本大学非常勤講師が「城下町・松本と民度」と題して、向学心や拾ヶ堰の築造など天保期松本における「民度」と松本藩主の「公志」を紹介し、庶民の生活に根付いた遺産の重要性を指摘しました。

本学からは、まず、溝口常俊同センター客員教授が、馬場家所蔵の近世史料を調査・分析し、「『北内田村宗門改帳』にみる家族構成とその変化」と題して講演しました。次に、奥貫圭一同センター准教授が、明治初期の村界データの作成過程とそれを用いた分析例を示し、「地理情報システム(GIS)を用いた地域史研究の可能性」と題して歴史GISの有用性を紹介しました。

次回は、来年1月に本学で研究会を開催します。

## アメリカにおける児童虐待への対応と里親・養子システム

大学院法学研究科准教授  
原田 綾子

リカは、児童虐待の被害児童が約67万7千人、児童虐待による死者が1570人（いずれも2011年の推定値）というように、深刻な虐待問題を抱える国でもあります。アメリカの児童虐待の中で最も多いのは、身体的虐待や性的虐待ではなく、ネグレクトです。アメリカにおいて多数の児童虐待が生み出される理由については様々な議論がありますが、福祉給付の削減による貧困の悪化とネグレクトの発生は、深い関係があるといわれています。

アメリカの児童虐待対応に関して、私が最近とくに注目しているのが、里親・養子システムがよく発達している点です。アメリカでは施設養育は例外的・限定的で、大多数の子どもが里親に委託されています。里親養育でも、子どもが「たらい回し」になることがあるなど課題も多いのですが、施設偏重の日本の状況を打開するために参考になるところが少なくありません。さらにアメリカでは、長期の里親養育は不安定な環境に長期間子どもを置くことになり望ましくないとして、実親との再統合の見込みがない場合には、養子縁組が計画され、実施される仕組みになっています。地域の家庭への養子斡旋も、積極的に行われています。ただ、虐待を受けて親を失った子どもの養育には困難も多く、養子縁組後の家庭をどう支援するかが課題となっています。

現在日本では、児童虐待への対応が喫緊の課題となっています。児童虐待に対応するための社会制度・法制度の構築にあたって、外国の制度から学べることは少なくないはずです。

アメリカの児童虐待対応システムは次のようなものです。まず、一般市民には虐待の通報義務がありますが、特に医師や教師など子どもと日ごろ接する立場にある専門職は、通報しないと刑罰が科されるといった形で、通報が強制されています。通報を受ける福祉行政機関には、虐待対応・介入・支援のための様々な権限が与えられています。福祉行政機関のソーシャルワーカーは専門職として採用されており、専門的スキルを駆使して虐待の調査、緊急性のアセスメント、親子の再統合プランの作成・実施、親子の面会の監督などを行います。といっても、緊急保護から再統合支援まで福祉行政機関がすべて独断で行うのではなく、必要な法的判断は裁判所が行うという形で、司法が深く関わっています。また、親と子どものためのサービス資源として、メンタルヘルス、親教育、十代の子育て支援、ドラッグ治療サービスなどが地域社会の中に存在し、行政との連携の中で様々なサービスが提供されています。

このように、アメリカの制度は日本の先を行っている点が多いと思われるのですが、同時にアメ



写真 児童虐待のケースを審理する法廷  
(拙著『虐待大国アメリカの苦闘』ミネルヴァ書房、2008、79頁)

# 私たちの体を守るために頑張っている皮膚、その多様なバリア機能

秋山 真志 大学院医学系研究科教授

## 皮膚の重要な役割、バリア機能

我々の体表面を覆っている皮膚の最も重要な働きの一つが、バリア機能です。進化の過程で、我々脊椎動物の祖先が水中の環境を離れたとき、彼らは大気中の環境に適応するため、種々の緻密な、適応システムを構築しました。その一つとして、皮膚は、乾燥した外界に体する強靱な防御システムである表皮の角化機構を発達させました。バリアシステムとしての角化において、角質に存在する脂質や天然保湿因子は水分保持やバリア機能の維持に不可欠です。角化以外にも皮膚はメラニン色素を持つことで紫外線に対してバリアとして働き、免疫応答によって、感染症へのバリア機能も有しています。

## 脂質輸送蛋白 ABCA12

バリアシステムとしての角化において、角質細胞間に存在する脂質は水分保持やバリア機能の維持に必要です。最も重篤な遺伝性皮膚疾患の一つである道化師様魚鱗癬は、出生時より全身の皮膚が非常に厚い板状の角層に覆われ、著明な眼瞼外反、口唇の突出開口を認める最重症型の先天性魚鱗癬です。私達は2005年、この道化師様魚鱗癬の病因蛋白が ATP-binding cassette (ABC) transporters のひとつである ABCA12であることを明らかにしました (Akiyama *et al.*, J Clin Invest

2005)。ABCA12は、皮膚表面の細胞で働いている脂質輸送蛋白です。ABCA12の働きで細胞外へ分泌された脂質は、角層細胞間脂肪層を形成し、皮膚バリアの要として働きます。

## フィラグリン

角化細胞質内を満たすフィラグリンとその分解産物は水分保持やバリア機能の維持に必須です。2006年、スコットランドのグループによりフィラグリンの遺伝子変異がアトピー性皮膚炎の重要な発症因子であることが示されました。翌年、私達は、日本人では日本人固有の（あるいは、アジア人固有の）フィラグリン遺伝子変異があることを示し、それらが、日本人でもアトピー性皮膚炎の重大な発症因子であることを明らかにしました (Nomura *et al.*, J Allergy Clin Immunol 2007)。その後、私達はさらに日本人のフィラグリン遺伝子変異を網羅的に同定し、フィラグリン遺伝子変異による皮膚バリア障害が、日本人アトピー性皮膚炎患者の約27%で、その発症因子となっていることを解明しています。

## 蛋白分解酵素 ADAM10

遺伝性の色素異常症の一つである網状肢端色素沈着症は、幼少時から手足を中心として、腕、首等にも、点状や網目状の皮膚のシミ、黒ずみができ、

少しずつ広がってくる病気です。日本人皮膚科医がみつけた病気であり、報告者の名を冠して reticulate acropigmentation of Kitamura と呼ばれています。初めての報告以来、70年が経過しても、

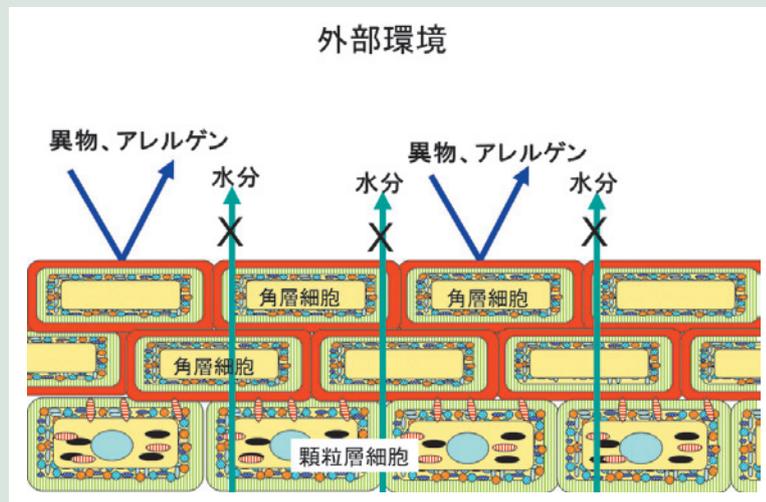


図1 皮膚の表面の角層のバリア機能により、外からの異物、アレルゲンの侵入が防がれ、また、皮膚の内側からの水分の蒸散が制限されています (Akiyama and Shimizu, Exp Dermatol 2008より、改変、引用)。

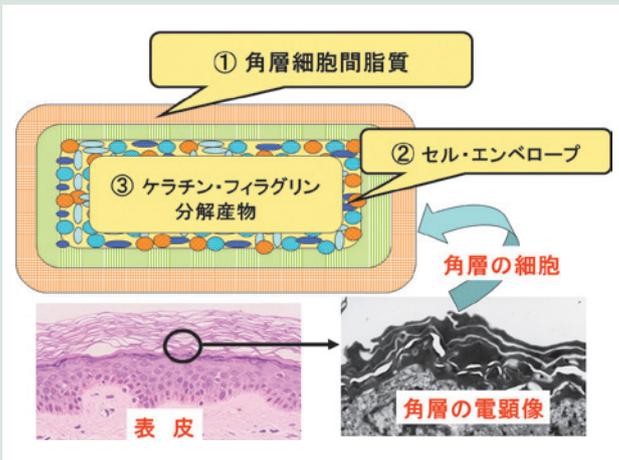


図2 皮膚の表面は表皮で被われています。その表皮の表面には角層があります。角層のバリア機能の三大重要要素が、角層細胞間脂質、丈夫な細胞膜であるセル・エンベロープ、そして、ケラチン・フィラグリンの分解産物です (Akiyama and Shimizu, Exp Dermatol 2008 より、改変、引用)。

この病気の原因は全く分かっていませんでした。今年、私達は、ヒトの体を構成するタンパク質についての全遺伝情報を短時間で解読することのできる次世代シーケンサーを用いて、患者さんとそのご家族のゲノムDNAを解析し、蛋白分解酵素 ADAM10の遺伝子変異がこの病気の原因であることを世界に先駆けて突き止めました (Kono *et al.*, Hum Mol Genet 2013)。ADAM10の機能については不明な点が多く残されていますが、ADAM10が分解する蛋白が皮膚表面の細胞の分化や、紫外線に対するバリアに重要なメラニン色素の産生・輸送に深く関連していると推測されます。

### インターロイキン36受容体阻害因子

皮膚は侵入してきた異物、病原体に対して免疫応答し、炎症を起こして対抗します。インターロイキン36は、炎症性サイトカイン、インターロイキン1ファミリーの一つで、インターロイキン36受容体に結合し、炎症を引き起こします。他方、インターロイキン36受容体阻害因子は、炎症抑制性サイトカインの一つで、インターロイキン36受容体に結合し、インターロイキン36のインターロイキン36受容体への結合を阻害し、炎症を抑制する方向に働きます。インターロイキン36受容体阻害因子は表皮細胞から分泌され、皮膚での炎症の制御をしているものと考えられます。汎発性膿疱性乾癬は急激な発熱とともに全身の皮膚が潮紅し、無菌性膿疱が多発する、時に致死的な慢性炎症性皮膚疾患です。私達は、名

大病院を含めた11施設から集積した患者さんを解析し、原発性の汎発性膿疱性乾癬の患者さんの8割以上はインターロイキン36受容体阻害因子欠損症であることを明らかにしました (Sugiura K. *et al.*, J Invest Dermatol 2013)。

### 皮膚バリアは私達の健康の要

道化師様魚鱗癬、アトピー性皮膚炎、網状肢端色素沈着症、汎発性膿疱性乾癬と、それぞれ全く異なる皮膚病ですが、実は、皮膚のバリア機能に重要な働きをしている分子が、それぞれの発症原因になっているのです。それらの分子の働きをさらに詳しく知ることは、皮膚バリア機能の仕組みの解明だけでなく、各疾患の新しい治療法の開発にもつながって行くことと期待されます。

1986年 慶應義塾大学医学部卒業、1990年 清水市立病院皮膚科、1992年 ワシントン大学医学部生物形態学、皮膚科学、上級研究員、1994年 北里研究所病院皮膚科、1999年 帝京大学医学部附属市原病院皮膚科助教授、2001年 北海道大学病院皮膚科講師、2007年 北海道大学大学院医学研究科皮膚科学分野准教授、2010年より現職。  
専門分野：遺伝性皮膚疾患、皮膚のバリア機能、アトピー性皮膚炎。  
モットー：いつも笑顔で！

あきやま まさし



第62回東海地区国立大学体育大会  
—男子3位、女子6位—

第62回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、主に6、7月の土・日曜日に開催されました。今年度は、本学が幹事大学となり、東海地区8国立大学が数競技の開催を分担し、男子20種目、女子19種目が東海地区の各所で実施されました（一部雨天等により中止の種目あり）。

出場した選手達は東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、梅雨空を吹き飛ばすよ

うな熱戦で大会は大いに盛り上がりました。

8月11日(日)をもって全競技が終了し、男子は岐阜大学が、女子は愛知教育大学が優勝しました。なお、本学は、男子3位、女子6位という結果に終わりました。

来年度は本学が東海地区の強豪校としての意地を見せ、優勝することができるか、選手の一層の精進と活躍が期待されます。

第62回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

■男子

競技種目	大学名		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	5	4.0	3	6.0	6	3.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	1	10.0	4	5.0			
2 水泳	2	8.0	1	10.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	3	6.0			
3 硬式野球	1	8.0	3	4.5	5	2.0	5	2.0	2	6.0	/	/	5	2.0	3	4.5			3位・4位の区別なし 5以下は順位なし
4 準硬式野球	1	8.0	5	2.0	3	4.5	/	/	3	4.5	2	6.0	5	2.0	5	2.0			3位・4位の区別なし 5以下は順位なし
5 硬式テニス	3	6.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	4	5.0			5位以下は順位なし
6 ソフトテニス																			雨天中止
7 バスケットボール			1	6.0	5	2.0	6	1.0	2	5.0	/	/	4	3.0	3	4.0			
8 バレーボール	5	4.0	1	10.0	4	5.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	3	6.0	6	3.0			
9 卓球	1	8.0	3	5.0	5	3.0	7	1.0	2	6.0	/	/	6	2.0	4	4.0			
10 バドミントン	7	2.0	4	5.0	6	3.0	2	8.0	3	6.0	8	1.0	5	4.0	1	10.0			
11 サッカー	3	5.0	2	6.0	6	2.0	/	/	1	8.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0			
12 ハンドボール	3	4.0	1	6.0	4	3.0	/	/	5	1.5	/	/	2	5.0	5	1.5			5位以下は順位なし
13 柔道	1	6.0	2	5.0	4	3.0	5	1.5	3	4.0	/	/	5	1.5	/	/			5位以下は順位なし
14 剣道	3	6.0	1	10.0	5	2.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	4	5.0			5位以下は順位なし
15 空手道	2	8.0	4	5.0	7	2.0	—	0.0	3	6.0	1	10.0	6	3.0	5	4.0			
16 弓道	4	5.0	5	2.5	3	6.0	5	2.5	5	2.5	1	10.0	2	8.0	5	2.5			5位以下は順位なし
17 体操	2	3.0	1	4.0	—	0.0	/	/	/	/	/	/	—	0.0	/	/			オープン競技
18 馬術	2	5.0	6	1.0	5	2.0	/	/	1	6.0	/	/	4	3.0	3	4.0			3位以下は順位なし
19 アーチェリー	3	3.0	4	2.0	/	/	/	/	5	1.0	/	/	2	4.0	1	5.0			
20 少林寺拳法	/	/	1	4.0	/	/	/	/	3	2.0	/	/	2	3.0	4	1.0			
合計得点		93.0		96.5		57.0		24.0		95.5		41.0		68.5		67.5			
男子順位		3		1		6		8		2		7		4		5			

■女子

競技種目	大学名		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	5	3.0	4	4.0	6	2.0	/	/	2	6.0	7	1.0	1	8.0	3	5.0			
2 水泳	5	2.0	2	5.0	/	/	/	/	6	1.0	3	4.0	1	6.0	4	3.0			
5 硬式テニス	5	2.0	5	2.0	/	/	/	4	4.0	1	8.0	3	5.0	2	6.0	5	2.0		5位以下は順位なし
6 ソフトテニス																			雨天中止
7 バスケットボール			3	2.0	/	/	/	/	1	4.0	/	/	2	3.0	4	1.0			
8 バレーボール	4	2.0	2	4.0	/	/	/	/	3	3.0	/	/	—	0.0	1	5.0			
9 卓球	2	5.0	5	2.0	6	1.0	/	/	1	6.0	/	/	3	4.0	4	3.0			
10 バドミントン	6	2.0	5	3.0	7	1.0	/	/	3	5.0	1	8.0	4	4.0	2	6.0			
12 ハンドボール	/	/	1	4.0	/	/	/	/	3	2.0	/	/	2	3.0	4	1.0			
13 柔道																			団体戦成立せず
14 剣道	2	5.0	5	1.5	/	/	/	/	4	3.0	5	1.5	3	4.0	1	6.0			5位以下は順位なし
15 空手道	4	2.0	/	/	/	/	/	/	1	5.0	3	3.0	2	4.0	5	1.0			
16 弓道	5	2.5	5	2.5	2	8.0	4	5.0	5	2.5	3	6.0	1	10.0	5	2.5			5位以下は順位なし
17 体操			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/			オープン競技
19 アーチェリー	—	0.0	—	0.0	/	/	/	/	/	/	/	/	1	4.0	2	3.0			
合計得点		25.5		30.0		12.0		9.0		45.5		28.5		56.0		38.5			
女子順位		6		4		7		8		2		5		1		3			



陸上競技



ハンドボール



体操

# テクノ・フェア名大2013を開催

●大学院工学研究科



基調講演の様子

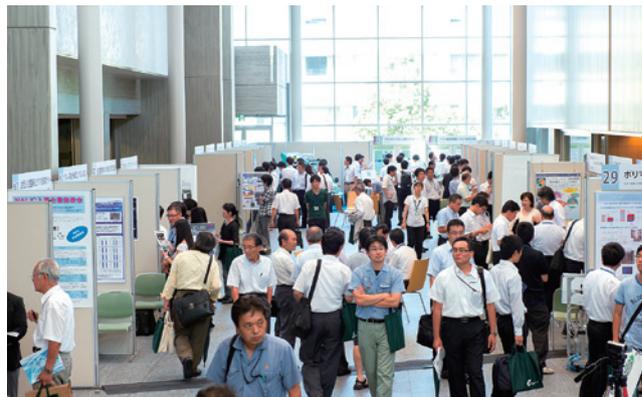
大学院工学研究科は、9月6日(金)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて、大学院医学系研究科、環境学研究科、情報科学研究科、創薬科学研究科、エコトピア科学研究所、グリーンモビリティ連携研究センター、シンクロトロン光研究センター、減災連携研究センターの共催のもと、「テクノ・フェア名大2013-工学が挑む新時代の科学・技術-」を開催しました。

テクノ・フェア名大は、本学の研究者による研究内容の講演、技術シーズ(種)及び研究成果のブース展示、研究施設の公開等を通じて、本学の研究活動とその成果を産業界や地域社会に広く情報発信し、地域社会との密接な交流や産学官連携の推進及び地域産業界の更なる活性化を図ることを目的としています。平成11年に始まり、14回目の開催となる今回は、企業の研究開発担当者、産学連携、研究等の支援機関、教育・研究機関関係者等約1,000名の来場がありました。

基調講演では、主催者を代表して松下工学研究科長からあいさつがあった後、河本邦仁同研究科教授から「熱から電気を生み出す夢の人工結晶 ―“熱電変換材料”」と題し、



説明を受ける参加者



ブース展示会場の様子

齋藤弥八同研究科教授から「ナノカーボンが拓く科学と工学」と題した講演が行われ、本学で行われている研究開発の実例が、最新の成果を交えて紹介されました。

引き続き、ブース出展者のうち19名から研究シーズ・研究成果概要を説明するミニ講演が行われました。ミニ講演の聴講者数は延べ930名となり、各講演で来場者が熱心にメモを取る姿などが見受けられ、また、活発な質疑応答が行われるなど、来場者が本学の研究活動に寄せる高い関心と期待がうかがえました。

ブース展示会場では、企業の研究開発担当者が多数詰めかけ、ブース説明者による研究成果の説明や技術相談が行われました。特に、模型や装置の展示及びデモは、来場者の関心を集め、大学で行われる研究がより身近なものに感じられたことと思われます。

特に今回は、本学において実施している博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」、「最先端次世代研究」及び文部科学省「ナノテクノロジープラットフォーム」事業に参画する研究室等から、多数のブース出展や研究施設の公開があり、事業の成果を積極的に社会へ向けて還元するなど、アウトリーチ活動の機会にもなりました。

今回のテクノ・フェア名大における技術相談や情報交換を契機として、共同研究等、今後更なる産学官連携に発展することが期待されます。

## 自然科学研究機構生理学研究所との基本協定書調印式等を挙

●大学院医学系研究科

大学院医学系研究科は、8月19日(月)、医学部鶴友会館大会議室において、自然科学研究機構生理学研究所との連携・協力の推進に関する基本協定書調印式を挙りました。

同研究科では、がん、循環器疾患などで世界レベルの研究を展開しており、両機関は特に基礎医学・臨床医学における脳・神経科学分野の研究で卓越した成果を挙げていま



調印後握手を交わす高橋研究科長(左)と井本生理学研究所長(右)

す。同協定により共同研究等の研究協力、研究者・学生及び関連職員の交流、人材育成、研究施設・設備の相互利用及び研究資源の相互利用について連携・協力を推進します。

調印式には、高橋医学系研究科長、祖父江 元同研究科教授及び宮田卓樹同研究科教授、自然科学研究機構から、井本敬二生理学研究所長、伊佐 正研究総主幹及び池中一裕教授が出席し、高橋研究科長及び井本所長により協定書へ署名されました。続いて、高橋研究科長から、共同研究の推進により若手研究者の育成を通じたこの地域の研究の活性化と、世界的に活躍できる人材の育成を期待したいとあいさつがあり、井本所長からは、特に若手研究者の育成には多くの経験が必要とするので、本学との連携強化により互いの共同研究が盛んになり、若手教育がより良いものになることを期待したい旨の話がありました。

引き続き行われた記念講演では、祖父江教授から「神経変性疾患の治療と予防への展望」と題し、続いて池中教授から「糖鎖とグリア細胞」と題して、これまでの研究成果等について紹介がありました。記念講演は基盤医学特論としても開講され、83名の教職員・学生が聴講しました。

## 医学部・大学院医学系研究科外部評価委員会を開催

●医学部・大学院医学系研究科

医学部・大学院医学系研究科は、8月21日(水)、医学部附属病院中央診療棟7階の特別会議室において、外部評価委員会を開催しました。これは、概ね5年に1回実施しており、今回は宮園浩平東京大学医学系研究科長、清島 満岐阜大学医学系研究科長、岡田保典慶應義塾大学医学部教授、菊池 章大阪大学医学系研究科教授、野浪敏明愛知医



プレゼンテーションの様子

科大学病院長等を外部評価委員として開催しました。

はじめに、高橋医学系研究科長による開会のあいさつがあった後、宮園委員を委員長に選出し、自己点検評価報告書の内容に沿って、午前は「学部教育」及び「大学院教育」、午後は「研究」、「診療」及び「業務運営」という評価項目ごとに、プレゼンテーションと外部評価委員によるヒアリングが繰り返し行われました。途中、附属図書館医学部分館、共通機器センター、クリニカルシミュレーションセンターなど、学生教育あるいは医療人養成と関わりの深い施設の見学も行われ、多忙なスケジュールの中、終始、外部評価委員と医学部・医学系研究科の教職員との間で活発な質疑応答が交わされました。

外部評価委員会を締めくくると総括討議では、宮園委員長から、特に学生の研究への取り組みに関して、大学側の熱心な対応がうかがえる一方、教員の負担も多いと思われるので、息の長い学生指導を続けていただきたいと意見が述べられました。

この後、医学部・医学系研究科では、各外部評価委員による外部評価書と自己点検評価報告書を合わせた「外部評価報告書」を今年度内に発行する予定となっています。

## テクノサイエンスセミナー2013を開催

### ●工学部

工学部は、8月20日(火)、同学部機械・航空工学科の各研究室において、高校生を対象としたテクノサイエンスセミナー2013「グローバルに活躍する航空宇宙工学」を開催しました。

このセミナーは、講義と体験実験を通じて、大学での航空宇宙工学の先端的な研究を経験し、また大学教員や大学



修了式の様子

院生と直接接することで、航空宇宙工学研究の楽しさや魅力を高校生に伝えることを目的としています。今年は主に東海地方から、87名の高校生が参加しました。

当日は、参加者全員に、機械・航空工学科航空宇宙工学コースで実施中の教育プログラムの紹介を行い、その後「飛行機の翼が揚力を発生するメカニズム」など8つのテーマから、各自が選んだテーマに分かれ、午前中に講義、午後には体験実験を行いました。参加した高校生は、教員や大学院生のアドバイスの下、風洞をはじめとする航空宇宙工学関連設備を使用して、熱心に体験実験に取り組みました。セミナーの最後には、修了式を行い、同セミナーの修了証と記念品が参加者に授与されました。修了式後に行われた交流会では、高校生と本学教員、大学院生とが輪になって楽しく語り合っている姿が見られました。参加した高校生は、航空宇宙工学により深い興味を抱き、大変満たされた1日となったようです。

## 第2回「先進科学塾@名大」を開催

### ●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、8月31日(土)、9月1日(日)の2日間、第2回「先進科学塾@名大」を開催しました。

この「先進科学塾@名大」は、テーマに沿った実験を多数行い、多くの方に科学のもっとも面白い部分に触れ、科学に親しんでもらうことを目的としています。

今回は「音を見る!」と題し、講師に愛知工業高校非常



オシロスコープで音の観察をする林講師と参加者

勤講師である林 熙崇氏を招いて開催しました。小型スピーカーを用いてマイクを手作りし、自分の声をオシロスコープという測定器で観察してその波形の違いをみたり、音速の測定をしたりしました。またステンレス板をスピーカーに接着して作った「音の万華鏡」で、色々な周波数の音を作る二次元図形(クラドニ図形)の観察も行い、音の不思議を学びました。参加者は、2日間で中学生17名、高校生1名、大学生1名、一般の方12名の計31名で、参加した中学生の付き添いで来た親御さんにも工作や実験に参加してもらいました。

次回は、12月7日(土)、8日(日)に「私も出してる電気信号」と題して、人体が出している電気信号(脳波や筋肉の運動に伴う電気信号)を自分で作ったアンプで観察し、人体と電気信号の不思議な世界を探る講座を開催する予定です。

また、先進科学塾では、希望があれば本学近辺の中・高等学校への出前授業なども行う予定です。

先進科学塾@名大のホームページは、こちら (<http://asw.flab.phys.nagoya-u.ac.jp/>) をご覧ください。

## 平成25年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催

### ●遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、8月19日(月)、8月20日(火)の2日間、遺伝子実験施設F館301号室及び理学部生命理化学学生実習室において、平成25年度SSH(スーパーサイエンスハイスクール)中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修「実習：光るタンパク質を取り出す。解説：遺伝子組換えとDNAシーケンス技術」を開催しました。今



実験の様子

年で6回目となる同研修は、愛知県内の高校の理科教員に、生命科学の進展を体験してもらうことを目的としており、6の高等学校から11名の教員と高校生2名が参加しました。講師は杉山康雄遺伝子実験施設准教授が務め、3名のティーチングアシスタントが補佐しました。

研修会は講義と実験から構成されており、初日は、杉山准教授が遺伝子組換えについての学術的解説に加えて、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律(通称カルタヘナ法)」について説明しました。その後、実習室へ移動し、ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)で増幅したDNA断片(ツユクサ葉緑体のrbcL遺伝子)をベクタープラスミドにクローニングする方法及び緑色蛍光タンパク質(GFP)を大腸菌で発現誘導する方法を学びました。2日目は、大腸菌で発現させたGFPを簡便な方法で大腸菌から取り出す方法を体験しました。最後に、同施設に設置された次世代DNAシーケンサーなどを見学し、井原邦夫同施設准教授が、次世代DNAシーケンサーを使った最新の研究について説明しました。

参加者は、法で定めたルールに従って行う遺伝子クローニング実験を学ぶことができたようです。

## 発達障害児のライフサイクル支援セミナーを開催

### ●発達心理精神科学教育研究センター

発達心理精神科学教育研究センターは、8月23日(金)、豊田講堂等において、発達障害児のライフサイクル支援セミナー「発達障害児に対する将来を見すえた支援～幼児期から成人期に向けて～」を開催しました。これは、平成19年度より施行している「発達障害分野における治療教育的支援事業」の地域への成果発信の場として行われたもので、



セミナーの様子

学外の専門家を中心に約700名が参加しました。

午前は豊田講堂において、國枝理事のあいさつの後、まず樋口一宗文部科学省特別支援教育調査官から「特別支援教育の現状と課題」と題した特別講演が行われ、障害者や特別支援教育に関する最近の我が国における施策や現状について紹介がありました。次いで「発達障害児へのライフステージに応じた支援～将来を見すえて～」と題したシンポジウムでは、野呂健二同センター特任准教授をはじめとする5名の臨床心理士・児童精神科医師による発表がありました。その中で、幼児期から高校生、大学生、成人に至る様々な年代での発達障害児に対する支援のあり方について、それぞれの実践・研究に基づいた報告があり、活発なディスカッションが行われました。

午後は、全学教育棟において、幼児期、学童期、特別支援教育、学習障害児、家族支援を主たるテーマとする5つの分科会(それぞれ参加者約100名)に分かれて、発達障害児に対する支援に関して、より専門的な議論が行われました。

## 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトキックオフシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月4日(水)、野依記念学術交流館において、南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトキックオフシンポジウムを開催しました。

このプロジェクトは、南海トラフ巨大地震・津波による被害軽減を目的に、巨大津波発生メカニズムの解明、広域被害予測シミュレーション、復旧復興計画の検討等を行う



シンポジウムの様子

もので、本学が文部科学省の委託で、海洋研究開発機構、東京大学、京都大学、東北大学、防災科学技術研究所等と連携するプロジェクトです。

同シンポジウムでは、森澤敏哉文部科学省研究開発局地震・防災研究課長の開会あいさつの後、金田義行海洋研究開発機構プロジェクトリーダーよりプロジェクトの概要説明がありました。続いて藤山秀章内閣府参事官より、南海トラフ巨大地震の被害想定と今後の防災対策についての講演があり、内閣府から公表された南海トラフ巨大地震による被害想定手法の解説と、被害を減じるための防災・減災対策の重要性について述べました。パネルディスカッションでは、福和減災連携研究センター長をコーディネータとして、プロジェクト推進に向けた現状と課題について活発な意見交換が行われました。プロジェクトメンバーからは、テーマ毎の課題や今後の意気込みが語られ、アドバイザーとして迎えた藤山秀章内閣府参事官、北川 尚高知県理事、日角 真中部日本放送記者からは、南海トラフ地震の予測可能性の向上について期待するとの意見がありました。最後に小林壯行愛知県防災局長より閉会のあいさつがありました。

## 平成25年度防災・減災カレッジを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月27日(土)、29日(月)、8月2日(金)、3日(土)、17日(土)、23日(金)、24日(土)、豊田講堂、環境総合館等において、防災人材育成研修「平成25年度防災・減災カレッジ」を開催しました。同研修は、行政、事業者団体、地域団体、ボランティア団体等で構成され、災害被害の軽減に向けて県民運動を推進している



会場の様子

「あいち防災協働社会推進協議会」が昨年度から始めたもので、本学のほか、愛知県、名古屋市などが共催しました。

7月27日(土)は、豊田講堂において「防災基礎研修」5科目の講義が行われ、今年度同カレッジに入学した多くの市民が参加しました。午前中は福和減災連携研究センター長から「防災概論」と題し、山岡耕春環境学研究科教授により「自然災害概論」と題した講演が行われ、その後「防災ボランティア論」、「防災行政概論」、「企業防災概論」の講義が行われ、受講者は熱心に聴講していました。同様の内容は三河地域でも講師と会場を変えて7月29日(月)にも行われました。

8月2日(金)以降は、「市民防災コース」、「企業防災コース」、「防災行政コース」、「地域防災コース」、「防災ボランティアコーディネーターコース」に分かれ、それぞれ講義を受講したほか、「啓発指導講座」、「メディア講座」、「救急救命講座」、「企業BCP講座」などもあわせて受講し、防災士の受験資格や「防災・減災カレッジ防災リーダー」などの資格を取得しました。

## 高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月25日(木)、26日(金)、29日(月)、8月26日(月)の4日間、環境総合館レクチャールーム及びES総合館ESホールにおいて、本学、愛知県防災局、愛知県教育委員会主催により高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催しました。

同セミナーは、南海トラフ巨大地震が懸念される愛知県



セミナーの様子

において、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーの育成を目的として、平成22年度から毎年開催しています。自然災害に対する知識や実践的な災害対応に関する講座を、2年に渡って受講します。今年度は、県内の高等学校30校から各校生徒4名、教員1名の合計150名が参加しました。

同セミナーでは、本学教員やNPO職員、県職員等の専門家による講義と演習が行われました。講義はプレート境界及び活断層での地震発生メカニズム、地震に伴う液状化や斜面崩壊のメカニズム、防災ボランティアの役割等についての講義があり、演習では、巨大災害発生を想定し、地図への書き込みを通して災害対応を考える災害図上訓練、避難所運営ゲーム「HUG」を通じた避難所の運営訓練、ペーパークラフト教材「紙ぶるる」を用いた耐震性能実験等の演習を行いました。

8月26日(月)は、津波被害とその対策について学び、その上で地域防災に向けた活動計画について発表を行いました。また、昨年度からの受講生による防災活動に関する経過発表も行われました。

## 展示会「珍品・逸品・新収品」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、5月21日(火)から9月13日(金)までの間、医学部分館において、展示会「珍品・逸品・新収品－医学部史料室の最近の収蔵品から－」を開催しました。

展示会では、17から19世紀の日本、中国、西洋の産科学、病理学をはじめとする貴重な古医書、明治期の公立医学校(本学の前身校)校長の著書や講義録、昭和初期に開発され



展示会の様子

た国産油侵系顕微鏡の名機、在学中に二・二六事件が起こった激動の時代の名古屋医科大学(本学の前身校)の卒業記念アルバム、県立愛知医科大学(本学の前身校)教授で脳神経外科学のパイオニアである齋藤 真氏の手術図で知られる所 輝夫氏(本学卒業生)の画集、戦前・戦中の個人的な図柄が楽しい薬瓶の封緘シールのコレクション、日本医学会総会が初めて名古屋で開催された時の七宝の会員章、昭和45年前後の本学医学部をはじめ、全国の大学の民主化を求める動きを、手書き文書、印刷資料、新聞・雑誌記事などで丹念にたどった民主化史料集など、同館内にある医学部史料室に最近寄贈された史料の中から、珍品、逸品の数々を展示し、多くの来館者の関心を集めていました。

寄贈品には、林 直助県立愛知医科大学教授によるツツガムシ病発生地である新潟県での研究の労苦と功績を描いた記録映画と、テレビで話題の新島八重氏や日本初の女医である荻野吟子氏らの生涯を描いたDVDもあり、館内で視聴された方々から好評を得ました。

また、展示品を契機として医学部史料室の見学を希望される方も多く、さらに大きな知的探究心に応えることができました。

## ミクロの探検隊を開催

●博物館

博物館は、8月24日(土)、同館展示室、実験室及び本学キャンパス内において、ミクロの探検隊「名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう!『雑木林のムシ』」を開催しました。

今回は、抽選で選ばれた小中学生19名が参加しました。まず、同館実験室において、危険なムシやビーティング



ムシの構造の説明を受ける小中学生

ネットと呼ばれる竹で四隅を固定した白い布を使ったムシの採取方法を学習しました。

続いて、本学キャンパス内の雑木林でムシの採集をしました。雨が朝方まで降っていたので、普段よりもムシの種類は少なかったものの上手にビーティングネットを使って採集出来ました。その後、同館実験室に戻り、実体顕微鏡での観察や電子顕微鏡試料作りを行いました。

午後からは、竹田真木生神戸大学教授による「ムシの進化、ムシの形と働き」と題した講義があり、その後、実際に走査型電子顕微鏡を使っての観察や撮影をする中で、どの参加者も画面に映し出される拡大されたムシの姿に夢中になりました。

参加者は、実際に体験することの楽しさやおもしろさと科学が結びついた夏休みの良い一日になったと思われます。

## 第2回地球教室を開催

●博物館

博物館は、8月31日(土)、9月1日(日)の2日間、名古屋科学館との共催で、親子対象フィールドセミナー「地球教室」を開催しました。この地球教室は、フィールドでの標本観察・採集とラボでの実験を組み合わせた体験学習型の地域貢献活動で、毎年4回開催しています。日本学術振興会による研究公開プログラム(ひらめき☆ときめきサ



岡崎市の矢作川にて砂を採取する参加者の様子

イエンス)の一環として開催された今年度第2回目となる今回の教室には、80名近い応募があり、その中から抽選で選ばれた小中学生と保護者の34名が参加しました。

今回のテーマは、身近な河原で宝石や歴史を見つけることです。宝石は買うもの、歴史は本から学ぶものとは限りません。小さなものでも宝石や歴史を自ら発見することの楽しさを、地学や考古学のフィールド体験を通して参加者に感じてもらいました。

1日目は、岡崎市の矢作川に出かけ、川砂の中からパンニングという方法を用いて比重の大きい鉱物を選別し、河原に落ちている古代の土器・陶器片を探すことを行いました。

2日目は、ルーペや実体顕微鏡をのぞきながら、シャーレにのせた砂に含まれる様々な鉱物を観察し、その形や色、磁性を調べながらガーネットやジルコン、磁鉄鉱などを見つけて分類しました。また、名古屋周辺の歴史と土器・陶器についての講義を行いました。砂や土器片の採集・観察では、児童・生徒に加えて保護者の方々も体験に没頭している姿が印象的でした。

なお、活動補助のために、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けました。

## 第51回博物館コンサートを開催

### ●博物館

博物館は、9月11日(水)、同館展示室において、第51回博物館コンサート「ヴィオラとハープの初秋のコンサート イギリス・フランスの香り」を開催しました。

ヴィオラ奏者の小松 大氏、ハープ奏者の荒川まどか氏により「F.ブリッジ 子守唄」、「G.フォーレ 夢のあとに」を始めとした全9曲が演奏されました。今回は、ヴィ



演奏の様子

オラとハープという組み合わせのため、珍しい曲が多いようで、初めて聴く方からこの道に精通した方まで、演奏された1時間大満足したようでした。演奏後もハープにほどこされている彫刻や絵を見る方が後を絶たず、一般のコンサートホールなどでは味わえない博物館コンサートの醍醐味を味わったようです。

また、同コンサートは回を重ねるたびに人数が増え、今回は321名が集まりました。

次回は、12月21日(土)午後2時より「知られざる音楽大国ベネズエラの調べ」を開催します。

## 受賞者一覧

### 褒章関係

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 6.17	日本学士院賞	物質科学国際研究センター 特任教授	巽 和行	

### 教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H22.12.15	Fellow of the American Association for the Advancement of Science	大学院理学研究科特任教授	町田 泰則	
H25. 3.29	2012年度日本地理学会賞（社会貢献部門）	日本地理学会災害対応本部 津波被災マップ作成チーム		[団体受賞] 鈴木康弘（減災連携研究センター教授） 堀 和明（大学院環境学研究科准教授） 他15名
H25. 4. 1	2013年度日本海洋学会日高論文賞	地球水循環研究センター 研究機関研究員	鋤柄 千穂	
H25. 4. 4	第31回日本土壌肥科学会奨励賞	大学院生命農学研究科助教	渡邊 健史	
H25. 4. 5	日本農芸化学会2013年度大会 トピックス賞	大学院情報科学研究科教授	吉田 久美	根岸孝至（大学院情報科学研究科研究員）、 他5名と連名
H25. 4.16	平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科助教	ウヤヌク ムハメット	
H25. 4.16	平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科助教	田代むつみ	
H25. 4.16	平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 開発部門	大学院工学研究科教授	石川 隆司	
H25. 5.13	土木学会中部支部 平成24年度土木学会 中部支部 技術賞	大学院工学研究科准教授	川崎 浩司	
H25. 5.22	先進的計算基盤システムシンポジウム (SACIS2013) 優秀若手研究賞	大学院工学研究科助教	塩谷 亮太	
H25. 5.25	第77回日本生化学会中部支部奨励賞	大学院生命農学研究科 研究員	瀬上 紹嗣	牧野沙知（農学部4年）、 三宅 愛（大学院生命農学研究科 M2）、 浅岡真理子（大学院生命農学研究科 D1）、 前島正義（大学院生命農学研究科教授）と 連名
H25. 5.25	日本超音波医学会 第14回奨励賞	医学部附属病院医員	伊藤 裕也	廣岡芳樹（医学部附属病院准教授）、 伊藤彰浩（医学部附属病院講師）、 後藤秀実（大学院医学系研究科教授）、 他6名と連名
H25. 5.27	粉体粉末冶金協会 第31回技術進歩賞	大学院工学研究科教授	金武 直幸	
H25. 5.29	平成24年度第53回映像情報メディア学会 丹羽高柳賞 論文賞	大学院工学研究科准教授	高橋 桂太	
H25. 5.30	第66回 中日文化賞	大学院情報科学研究科教授	小澤 正直	
H25. 6. 5	情報処理学会 2012年度情報処理学会論文賞	大学院工学研究科助教	梶 克彦	河口信夫（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 6. 6	人工知能学会 功労賞	大学院情報科学研究科教授	間瀬 健二	
H25. 6. 7	映像情報メディア学会 査読功労賞	大学院工学研究科准教授	高橋 桂太	
H25. 6. 7	日本セラミックス協会 2012年度優秀論文賞	大学院工学研究科教授	北 英紀	
H25. 6. 7	日本セラミックス協会 2012年度優秀論文賞	大学院工学研究科助教	金 日龍	大槻主税（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 6.10	プラスチックリサイクル化学研究会 平成24年度 FSRJ 賞 研究進歩賞	大学院工学研究科助教	寺門 修	
H25. 6.11	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2012	大学院医学系研究科教授	山本 誠一	
H25. 6.14	土木学会 平成24年度土木学会 論文賞	大学院工学研究科教授	水谷 法美	
H25. 6.21	日本神経科学学会奨励賞	大学院理学研究科特任講師	坂内 博子	
H25. 6.21	時実利彦記念賞	大学院理学研究科教授	森 郁恵	
H25. 6.22	第107回 臨床呼吸生理研究会 奨励賞	医学部附属病院病院講師	橋本 直純	長谷川好規（大学院医学系研究科教授）、 横井香平（大学院医学系研究科教授）、 他1名と連名

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 6.24	日本生物学的精神医学会 国際学会発表奨励賞	大学院医学系研究科 特任准教授	アレクシッチ ブランコ	
H25. 7. 1	新聞広告電通賞、公共部門最優秀賞、 広告電通賞特別賞、名古屋地区広告賞、 準名古屋地区広告賞	名古屋大学医学部附属病院		他37の企業・大学・医療機関
H25. 7. 2	日本原子力研究開発機構 先行基礎工学研究 表彰	大学院工学研究科准教授	河原林 順	
H25. 7. 3	Reaxys PhD Prize 2013 (Finalists)	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任助教	大石 俊輔	
H25. 7. 3	Best Paper Award, CLEO-PR & OECC/PS 2013	大学院工学研究科研究員	レ ハイ チョウ	長谷川浩 (大学院工学研究科准教授)、 佐藤健一 (大学院工学研究科教授) と連名
H25. 7. 6	日本薬学会東海支部 学術奨励賞	医学部附属病院薬剤部 准教授	永井 拓	
H25. 7. 7	Winner of 2013 Chirality Medal, 25th International Symposium on Chirality	大学院工学研究科教授	八島 栄次	
H25. 7.11	平成25年度日本コンクリート工学年次大会 2013 第35回コンクリート工学講演会年次論 文奨励賞	大学院工学研究科助教	三浦 泰人	
H25. 7.16	可視化情報学会 第24期可視化情報学会 学会賞	大学院工学研究科准教授	山口 浩樹	中嶋悠貴 (大学院工学研究科 M2)、 松田 佑 (大学院工学研究科助教)、 新美智秀 (大学院工学研究科教授) と連名
H25. 7.19	Best Paper Award for Scheduling Theory, International Symposium on Scheduling 2013	大学院工学研究科准教授	今堀 慎治	
H25. 7.31	高分子学会 第23回バイオ・高分子 シンポジウム 若手研究者奨励講演賞	エコトピア科学研究所講師	神谷由紀子	
H25. 7.31	Funded Travel Awards, Early Career Investigator Program 2013 (ECIP)	大学院医学系研究科 特任准教授	アレクシッチ ブランコ	
H25. 8. 2	Best Poster Award, 15th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA-15)	トランスフォーマティブ 生命分子研究所 外国人特別研究員	チョウ チーミン	
H25. 8. 2	第12回アジア太平洋研究賞 (井植記念賞) 佳作	大学院国際開発研究科 特任助教	リュウ ジン	
H25. 8. 7	Early Career Award in Nanotechnology, IEEE NANO 2013	大学院工学研究科助教	中島 正博	
H25. 8. 8	名古屋大学若手女性研究者 サイエンスフォーラム 総長賞	大学院理学研究科研究員	空華 智子	
H25. 8.10	日本混相流学会 2012年度日本混相流学会 貢献賞	大学院工学研究科准教授	川崎 浩司	
H25. 8.13	Best Presentation Award. ACDDE (Asian conference on Design & Digital Engineering) 2013	大学院工学研究科准教授	小橋 眞	
H25. 8.19	平成25年度第1回中部経済産業局施策功労者 感謝状	副総長・医学系研究科教授・ 産学官連携推進本部長	松尾 清一	
H25. 8.21	2013年度日本実験力学会 奨励賞	大学院工学研究科助教	寺島 修	
H25. 8.27	日本テスト学会論文賞	大学院教育発達科学研究科 教授	野口 裕之	他5名と連名
H25. 8.28	第16回公益信託エスベック地球環境研究・ 技術基金 エスベック地球環境研究奨励賞	エコトピア科学研究所 研究機関研究員	布目 陽子	
H25. 8.30	クリタ水・環境科学振興財団 平成22年度 自然科学 (一般研究) クリタ水・ 環境科学研究優秀賞	大学院工学研究科准教授	向井 康人	
H25. 9. 9	日本熱電学会 日本熱電学会学会賞	大学院工学研究科教授	河本 邦仁	
H25. 9. 9	日本熱電学会 日本熱電学会講演奨励賞 (口頭発表の部)	大学院工学研究科助教	ワン チュンライ	
H25. 9.11	平成25年度日本生化学会奨励賞	細胞生理学センター 助教	阿部 一啓	
H25. 9.14	日本植物学会賞 学術賞	大学院理学研究科特任教授	町田 泰則	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 9.15	日本コンピュータ外科学会 第10回日立メディコ賞ゴールド賞	情報連携統括本部 情報戦略室特任助教	林 雄一郎	

## 事務職員・技術職員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 5.13	平成25年度愛知県看護功労者表彰	医学部附属病院看護部 看護師長	服部 宜子	
H25. 6. 8	日本疲労学会研究奨励賞	全学技術センター（医学） 技術専門職員	安井正佐也	時實恭平（大学院医学系研究科 D1）、 竹内 想（医学部 3年）、 木山博資（大学院医学系研究科教授）と 連名
H25. 6.20	平成25年度愛知県看護協会会長表彰	医学部附属病院看護部 技能補佐員	鈴木三栄子	
H25. 6.20	平成25年度国立大学図書館協会賞	附属図書館情報システム課 課長補佐	栗野 容子	
H25. 7.21	医療薬学フォーラム2013 優秀ポスター賞	医学部附属病院薬剤部主任	矢野 亨治	他 7名と連名

## 学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H22.10.29	PICES-2010 Best Presentation Awards: MONITOR Topic Session	大学院環境学研究科 D3	山口 寿史	
H25. 3. 3	サイエンス・インカレ奨励表彰	理学部4年	大須 理恵	
H25. 3. 4	日本学術振興会 育志賞	大学院法学研究科 D3	福田 真希	
H25. 3.18	平成24年度日本蚕糸学会進歩賞（奨励賞）	日本学術振興会特別研究員 PD	大出 高弘	
H25. 3.28	日本原子力学会 熱流動部会 優秀講演賞	大学院工学研究科 M2	原田 浩行	
H25. 4.18	日本化学会 第93春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D2	村山 恵司	田中良寛（大学院工学研究科 M2）、 櫻田 啓（大学院工学研究科准教授）、 浅沼浩之（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 5.13	土木学会中部支部 平成24年度土木学会 中部支部 優秀研究発表賞	大学院工学研究科 D2	鈴木 一輝	
H25. 5.16	日本レオロジー学会 第40年会 Best Presentation 賞	大学院工学研究科 D1	土肥 侑也	
H25. 5.22	先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS2013 最優秀論文賞	大学院工学研究科 M1	小林 誠弥	塩谷亮太（大学院工学研究科助教）、 安藤秀樹（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 5.23	日本ゴム協会 2013年年次大会ポスター発表 の部 ポスター優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	木村聡一郎	
H25. 5.25	第77回日本生化学会中部支部奨励賞	大学院生命農学研究科 M1	松岡 修平	羽根正弥（大学院生命農学研究科 D1）、 西村紗希（大学院生命農学研究科 M2）、 北島 健（生物機能開発利用研究センター 教授）、佐藤ちひろ（生物機能開発利用 研究センター准教授）と連名
H25. 5.25	第77回日本生化学会中部支部奨励賞	大学院生命農学研究科 D3	青木 里奈	藤田祐一（大学院生命農学研究科准教授） と連名
H25. 5.30	電気学会 電気学術振興賞 論文賞	大学院工学研究科 D1	脇本 亨	
H25. 6. 1	第4回日本光合成学会年会 ポスター賞	大学院理学研究科 D1	浅田 瑞枝	
H25. 6. 1	東海心理学会第62回大会 優秀大会発表賞	大学院教育発達科学研究科 研究生	梅本 貴豊	
H25. 6. 6	人工知能学会 研究会優秀賞	大学院情報科学研究科 M2	松井 隆幸	三輪和久（大学院情報科学研究科教授）、 寺井 仁（大学院情報科学研究科特任准 教授）、他 1名と連名
H25. 6. 6	人工知能学会 全国大会学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	白井 翔平	
H25. 6. 7	Winners of 9th GSC Poster Awards on 2nd JACI/ GSC Symposium	大学院工学研究科 M1	宮治 久宜	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H25. 6.14	前田記念工学振興財団 平成25年度 山田一宇賞	大学院環境学研究科 博士研究員	高塚 真央	
H25. 6.17	日本地球惑星科学連合2013年大会 地球人間圏科学セクション学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 D3	永井 裕人	
H25. 6.18	Springer Int. Award, The 1st Awaji International Workshop on Electron Spin Science & Technology (AWEST)	大学院理学研究科 D1	浅田 瑞枝	
H25. 6.18	Best Poster Award, 39th IEEE Photovoltaic Specialists Conference	大学院工学研究科 M2	志村 大樹	
H25. 6.21	日本地球惑星科学連合2013年大会 大気水圏科学セクション学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 D2	辻野 智紀	
H25. 6.22	日本結晶成長学会 ナノエビ分科会 発表奨励賞	大学院工学研究科 D1	久志本真希	
H25. 6.27	日本作物学会第235回講演会優秀発表賞 (口頭発表部門)	大学院生命農学研究科 D2	大井 崇生	
H25. 6.29	第1回社会情報学会中部支部研究会優秀賞	大学院情報科学研究科 M1	加藤 福己	長尾総輝 (大学院情報科学研究科 M2)、 浦田真由 (国際開発研究科助教)、 安田孝美 (大学院情報学研究科教授) と 連名
H25. 6.30	日本認知心理学会優秀発表賞(総合性評価部門)	大学院教育発達科学研究科 D1	山脇 望美	他2名と連名
H25. 7. 5	第29回日本 DDS 学会学術集会優秀発表者賞	大学院生命農学研究科 M2	富岡 三貴	
H25. 7. 5	ICMDT 2013 Best paper Award	大学院工学研究科 M2	炭竈 美穂	
H25. 7. 8	第23回欧州動物細胞工学会 (ESACT2013) Bursary Award	大学院生命農学研究科 M2	木田 晶子	
H25. 7.11	New Investigator Awards (Poster), 31st Conference of The International Society of Biomechanics in Sports	大学院教育発達科学研究科 D2	伊賀 崇人	布目寛幸 (総合保健体育科学センター 准教授) と連名
H25. 7.11	日本コンクリート工学会 第35回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞	大学院工学研究科 M2	古橋 宏紀	中村 光 (大学院工学研究科教授) と連名
H25. 7.13	第4回 MRSA フォーラム 優秀演題賞	大学院医学系研究科 D4	井口 光孝	進藤一郎 (医学系研究科特任助教)、 市川和哉 (医学部附属病院薬剤部薬剤師)、 八木哲也 (大学院医学系研究科教授)、 他7名と連名
H25. 7.13	平成24年度東海社会学会 優秀修士論文研究表彰	大学院環境学研究科 D1	伊藤 綾香	
H25. 7.14	日本生物工学会 セルプロセッシング計測評価 研究部会 第5回若手研究シンポジウム 平成25年度 研究奨励賞	大学院生命農学研究科 D1	曾宮 正晴	
H25. 7.19	Best Paper Award for Scheduling Theory, International Symposium on Scheduling 2013	大学院情報科学研究科 D1	胡 艶楠	橋本英樹 (大学院情報科学研究科助教)、 今堀慎治 (大学院工学研究科准教授)、 柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授) と 連名
H25. 7.31	第48回有機反応若手の会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	永田 大	
H25. 8. 1	ISNA-15 IUPAC Best Poster Award	大学院理学研究科 M2	大島 寛也	
H25. 8. 1	ISNA-15 Best Poster Award	大学院理学研究科 M1	大角真一朗	
H25. 8. 2	ISNA Best Poster Award	大学院理学研究科 D1	八木亜樹子	
H25. 8. 2	日本生物工学会 中部支部 支部長賞	大学院工学研究科 D1	小島 佑介	
H25. 8. 5	M&M2013 (Microscopy & Microanalysis 2013) M&M Student Poster Award	大学院工学研究科 D3	李 偉	丹司敬義 (エコトピア科学研究所教授)
H25. 8. 6	フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 第44回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン 総合シンポジウム 若手奨励賞	大学院理学研究科 D3	中西 亮	
H25. 8. 6	フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 第44回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン 総合シンポジウム 若手奨励賞	大学院理学研究科 M2	宮浦 健志	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H25. 8. 6	フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 第44回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン 総合シンポジウム 若手奨励賞	大学院理学研究科 M2	前田枝里子	
H25. 8. 6	応用物理学会 応用物理学会放射線分科会 ポスター賞	大学院工学研究科 M1	杉本 大	渡辺賢一 (大学院工学研究科准教授)、 山崎 淳 (大学院工学研究科助教)、 瓜谷 章 (大学院工学研究科教授) と連名
H25. 8. 6	RSC Publishing Green Chemistry Poster Prize	大学院工学研究科 M1	林 祐衣	
H25. 8. 8	名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム 総長賞	大学院理学研究科 M1	荒木未紗保	
H25. 8.21	平成25年度植物感染生理談話会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	安達 広明	
H25. 8.21	The Misumi Award 2011, Asian Journal of Social Psychology	大学院環境学研究科 D3	後藤 伸彦	唐沢 穰 (大学院環境学研究科教授) と 連名
H25. 8.28	エアロゾル科学・技術討論会ベストポスター賞	大学院理学研究科 M2	中川 真秀	笹子宏史 (太陽地球環境研究所技術補佐員)、 中山智喜 (太陽地球環境研究所助教)、 松見 豊 (太陽地球環境研究所教授) と 連名
H25. 9. 2	TIA 連携大学院 第1回 TIA ナノエレクトロ ニクス・サマースクール ポスター奨励賞	大学院工学研究科 M2	池 進一	
H25. 9. 3	環境科学会2013年会 修士課程学生の部 優秀発表賞 (富士電機賞)	大学院環境学研究科 M2	田中 健介	
H25. 9. 7	第24回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	大島 寛也	
H25. 9. 7	第24回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	御田村侑香里	
H25. 9. 7	第24回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院工学研究科 D1	伊藤 覚	
H25. 9. 9	日本熱電学会 日本熱電学会講演奨励賞 (ポスター発表の部)	大学院工学研究科 M2	伊藤 智裕	
H25. 9.12	第86回日本生化学会大会 鈴木紘一メモリアル賞 (優秀プレゼンテーション賞)	大学院創薬科学研究科 M1	小河 亮太	
H25. 9.13	2013年光化学討論会ポスター賞	大学院理学研究科 M1	鈴木 直弥	

\*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
1 2013「防災の日」NIKKEI シンポジウムー東日本大震災から2年半の教訓を考えるー開催：24日 福和伸夫減災連携研究センター教授と廣井 悠同准教授が講演	8.16 (金) 8.19 (月)	日経 (朝刊) 日経 (朝刊)
2 2013年度東海学生アーチェリー夏個人戦選手権大会：寺嶋 南さん本学学生 女子個人の部2位	8.16 (金)	読売
3 第66回愛知県高等学校野球選手権大会名古屋地区予選：1次予選 教育学部附属高等学校が春日丘高等学校に1ー8で敗れる	8.16 (金)	読売
4 飯塚 悟環境学研究科准教授は60年後の名古屋の8月の平均気温が36度以上になるという予測を発表	8.17 (土)	読売
5 遺すために 16歳・余命告知からの87日間④：医学部附属病院で実施した16歳の小児がん患者に対する余命告知について	8.17 (土)	中日 (朝刊)
6 本学と愛知県立大学などの研究グループは人間の生活リズムに適合したLED スマート照明システムを開発	8.18 (日)	朝日 (朝刊)
7 創論：イノベーション どう起こす 100年先の成果 見据える 益川敏英本学特別教授	8.18 (日)	日経 (朝刊)
8 Nippon 蘇れ：私の処方箋 野依良治本学特別教授	8.18 (日)	読売
9 井口治夫環境学研究科教授が準備をすすめる連合国軍総司令部マッカーサー最高司令官の軍事秘書ボナー・フェラーズ准将の半生を描いた著書について取り上げられる	8.18 (日)	中日 (朝刊)
10 遺すために 16歳・余命告知からの87日間⑤：医学部附属病院で実施した16歳の小児がん患者に対する余命告知について	8.18 (日)	中日 (朝刊)
11 知の拠点 欧米優位に挑む：大学ランキング日中韓上位 本学は26位	8.19 (月)	日経 (朝刊)
12 遺すために 16歳・余命告知からの87日間⑥：医学部附属病院で実施した16歳の小児がん患者に対する余命告知に対する高橋義行医学系研究科准教授や佐々木美和医学部附属病院チャイルド・ライフ・スペシャリストの取り組みについて	8.19 (月)	中日 (朝刊)
13 第66回愛知県高等学校野球選手権大会名古屋地区予選：1次予選 教育学部附属高等学校が鳴海高等学校に9ー2で勝利	8.19 (月)	読売
14 医学系研究科と自然科学研究機構生理学研究所は研究の連携や人材交流の推進のため基本協定を締結	8.20 (火) 8.21 (水)	日刊工業 中日 (朝刊)
15 現代日本誤百科 (849)「足元が見られる」町田 健文学研究科教授	8.20 (火)	中日 (朝刊)
16 田所敬一環境学研究科准教授は南海トラフに沈み込む海のプレート上に海底 GPS 観測点を初めて設置	8.21 (水)	日刊工業 他2社
17 炎暑列島⑤：五十鈴川 雨降らず 蜚も姿消す 辻本哲郎工学研究科教授は「水害や水不足が、いつ、どこで発生するかということは、以前に増して予測が難しくなっている」と語る	8.21 (水)	読売
18 Nippon 蘇れ：吸収4 野依良治本学特別教授は「世界では大学人材にも実力に応じた市場価格がある」と語る	8.21 (水)	読売
19 五島剛太理学研究科教授と東京大学は細胞分裂の際に細胞を均等に2つに分けるのを助けるたんぱく質を発見	8.21 (水)	中日 (朝刊)
20 本学は田辺三菱製薬株式会社と日本メナード化粧品株式会社との産学協同研究講座を開設	8.22 (木)	中日 (朝刊) 他2社
21 平成25年度第6回あいち防災リーダー養成塾：本学で開校式を開く	8.23 (金)	中日 (朝刊)
22 テクノ・フェア名大2013開催：9月6日 河本邦仁工学研究科教授と齋藤弥八同教授が講演	8.23 (金)	日刊工業
23 時流の先へ中部財界ものがたり：第10部醸造の里 知多<4> 本学の開学に尽くした文部事務次官伊東延吉氏が取り上げられる	8.23 (金)	中日 (朝刊)
24 本 秀紀法学研究科教授が東邦高等学校の生徒に招かれ憲法問題を考える勉強会の講師を務めた	8.24 (土)	中日 (朝刊)
25 発達障害児のライフサイクル支援セミナー「発達障害児に対する将来を見すえた支援ー幼児期から成人期に向けてー」開催：23日	8.24 (土)	中日 (朝刊)
26 第59回コレギウム・ムジクム チェンバロコンサート「クーブラン一族の音楽ーヴェルサイユ・クラヴサン楽派ー」開催：9月7日 シンポジオンホールにて行われる	8.24 (土)	中日 (朝刊)
27 ゆうかんさん：第24回愛知県学生柔道新人選手権大会1年生の部で優勝した片浦幸也さん本学1年生	8.24 (土)	中日 (夕刊)
28 医学部進学特集：伴 信太郎医学系研究科教授、町井春花さん医学部6年生、石澤成樹さん同2年生	8.24 (土)	朝日 (朝刊)
29 医学部進学特集：「中京圏の医学部」攻略の着眼点 名古屋大学 先輩からのメッセージ 山川将人さん医学部3年生	8.24 (土)	朝日 (朝刊)
30 耕論：地震予知とどう向き合う 山岡耕春環境学研究科教授と兵庫県立大学准教授木村玲欧氏本学元助教	8.25 (日)	朝日 (朝刊)
31 大幸財団助成先に荒川宜親医学系研究科教授、石坂丞二地球水循環研究センター教授、久本直毅理学研究科准教授、高野敦志工学研究科准教授、野中千穂基礎理論研究センター准教授が採択される	8.25 (日)	中日 (朝刊)
32 朝日カルチャーセンター名古屋新講座：「絵画と文学ー中世の名僧たち」阿部泰郎文学研究科教授、伊藤大輔同教授、「カント『純粹理性批判』を読むーカテゴリーの演繹と図式論」宮原 勇文学研究科教授、「シェイクスピアの今ー図像学入門IV」鈴木繁夫国際言語文化研究科教授、「エジプトのピラミッド研究最前線」日本学術振興会特別研究員 (配属先名古屋大学) 河江肖剰氏	8.25 (日)	朝日 (朝刊)
33 第9回東海学会会歌祭開催：24日	8.25 (日)	読売 中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
34 現代日本誤百科 (852) 運行が「見合わされている」町田 健文学研究科教授	8.26 (月)	中日 (朝刊)
35 神田英輝工学研究科助教は藻がため込んだバイオ燃料を従来の半分以下のエネルギーで抽出する手法を確立	8.27 (火)	日経 (朝刊)
36 中日新聞地球未来こども塾：田中隆文生命農学研究科准教授は「さまざまな見方ができる人になってください」と語る	8.27 (火)	中日 (朝刊)
37 宮尾 克情報科学研究科教授や福山市立大学などは3D裸眼映像を用いた輻輳角・水晶体調節同時計測の実証実験を開始	8.28 (水)	日刊工業
38 現代日本誤百科 (853) 「いい試合だったと太鼓判を押した」町田 健文学研究科教授	8.28 (水)	中日 (朝刊)
39 産業春秋：書籍「青い光に魅せられて」赤崎 勇本学特別教授著が取り上げられる	8.28 (水)	日刊工業
40 経済教室：既存顧客を「育てる金融」に 家森信善経済学研究科教授	8.28 (水)	日経 (朝刊)
41 過疎・高齢化の消防団に米国青年 米国人の新メンバーと同じ消防団に所属する豊根村職員坂本健太郎氏本学卒業生が通訳を務める	8.28 (水)	中日 (朝刊)
42 学ぶ育む：株式会社リクルートマーケティングパートナーズによる志願したい大学ランキングで本学が東海の1位になり5年連続のトップとなる	8.29 (木)	読売
43 現代日本誤百科 (854) 「現在スポンサー離れが進んだ」町田 健文学研究科教授	8.29 (木)	中日 (朝刊)
44 知と学びのサミット「個性が育むサイエンス—ノーベル賞受賞者が語る」開催：9月23日 益川敏英本学特別教授と下村 脩同特別教授が講演	8.29 (木)	朝日 (朝刊)
45 名古屋大学オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」知識・博学への挑戦が9月7日開講	8.29 (木)	中日 (朝刊)
46 医学部附属病院に開設するドナルド・マクドナルド・ハウスについて元患者の9歳の長男を亡くした母親が自ら体験談を話し講演会で寄付金を募る	8.29 (木)	朝日 (夕刊)
47 学校の柔道事故死 9割は部活、実態よく見て 内田 良教育発達科学研究科准教授	8.30 (金)	朝日 (朝刊)
48 秋の名古屋大学オープンレクチャー2013開催：9月23日	8.30 (金)	中日 (朝刊)
49 博物館コンサート「ヴィオラとハーブによる初秋のコンサート—イギリス・フランスの名曲を中心に—」開催：9月11日	8.30 (金)	中日 (朝刊)
50 第10回中央日本交流・連携サミット開催：29日 平野真一本学前総長がコーディネーターを務める	8.30 (金) 9. 5 (木)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
51 山岡耕春環境学研究科教授が南海トラフ巨大地震について解説	8.31 (土)	読売
52 がん研究の躍進による先進的な予防・診断・治療法の創出：愛知県立がんセンター総長木下 平氏本学元教職員、同研究所副所長関戸好孝氏本学元講師	8.31 (土)	中日 (朝刊)
53 研究現場発：土壌地下水汚染の浄化 片山新太エコトピア科学研究所教授	9. 2 (月)	中部経済新聞
54 ケアラサポート研究会主催ワークショップ「これからの在宅ケアを創る—家族介護者支援の視点を養おう—」開催：1日 本学で行われた	9. 2 (月)	中日 (朝刊)
55 坪木和久地球水循環研究センター教授は「国内の竜巻は台風に伴うものが多く、これからの季節はどの地域でも発生する恐れがある」と語る	9. 3 (火)	読売
56 現代日本誤百科 (856) その男を「恐怖に思う」町田 健文学研究科教授	9. 3 (火)	中日 (朝刊)
57 平成25年度公開シンポジウム「気候変動のリスクを知る—リスク情報の創り方—」開催：25日 坪木和久地球水循環研究センター教授が講演	9. 3 (火)	日刊工業
58 環境学研究科附属地震火山研究センターは南海トラフに沈み込む海のプレート上に海底 GPS 観測点を初めて設置	9. 4 (水)	毎日 (朝刊) 日経 (朝刊)
59 現代日本誤百科 (857) 「万一景気が上向いたら」町田 健文学研究科教授	9. 4 (水)	中日 (朝刊)
60 医療法人葵鐘会理事長山下 守氏本学元教職員は乳児死亡率が日本の8倍と高いベトナムに周産期医療を受けられる診療所を開設	9. 4 (水)	中日 (朝刊)
61 現代日本誤百科 (858) 事件の「経緯を見守っている」町田 健文学研究科教授	9. 5 (木)	中日 (朝刊)
62 都市防災を考える 廣井 悠滅災連携研究センター准教授は「産学官の協同体制を強化し、さらに社会全体で都市防災に取り組んでいきたい」と語る	9. 5 (木)	日経 (朝刊)
63 森島昭夫本学名誉教授が委員長を務める厚生労働省の有識者会議が第2回会合を開いた	9. 5 (木)	日刊工業
64 山本裕二総合保健体育科学センター教授は剣道で対戦する二者間の攻防に潜む規則性を解明	9. 5 (木)	毎日 (夕刊)
65 愛知県議会9月定例会で教育委員を務める平石賢二教育発達科学研究科教授が10月に任期満了になるため後任に松本真理子発達心理精神科学教育研究センター教授を充てる人事案の同意を求める	9. 6 (金)	中日 (朝刊)
66 東海の文学風土記 三田村博史 33：国際嚶鳴館の名前の由来が紹介される	9. 6 (金)	中日 (夕刊)
67 日本土壌肥料学会2013年度名古屋大会公開シンポジウム開催：11日 ES 総合館にて行われる	9. 7 (土)	中日 (朝刊)
68 平成25年度愛知大学野球秋季リーグ戦2部で「国立の星」と呼ばれる七原優介さん本学3年生が紹介される	9. 7 (土)	朝日 (朝刊)
69 福井康雄理学研究科教授が講演する福井教室が99回目を迎えた	9. 8 (日)	中日 (朝刊)

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
70 福井康雄理学研究科教授は宇宙空間にある水素の総量がこれまで考えられていた値の2倍以上存在することを突き止めた	9.10 (火)	読売 他2社
71 福和伸夫減災連携研究センター教授は名古屋市が大規模造成地の場所を公開したことについて「津波にばかり注意がいきついで、盛り土造成地の危険性が見過ごされてしまっている」と語る	9.10 (火)	中日 (朝刊)
72 現代日本誤百科 (859) 話を「盗み聞いた」町田 健文学研究科教授	9.10 (火)	中日 (朝刊)
73 平成25年度愛知県救急医療推進大会：9日 松田直之医学系研究科教授が講演	9.10 (火)	中日 (朝刊)
74 第8回名大病院市民公開講座開催：29日	9.10 (火)	中日 (朝刊)
75 未来の医療を占うーコンピュータ外科と医療画像処理に関する市民公開講座開催：22日 豊田講堂にて行われる	9.10 (火)	中日 (朝刊)
76 本学と東京大学、国立極地研究所は立体感のあるオーロラの3次元プラネタリウム上映に成功	9.11 (水)	日刊工業
77 現代日本誤百科 (860)「時代の変化が象徴された出来事」町田 健文学研究科教授	9.11 (水)	中日 (朝刊)
78 法務省が2013年の司法試験の合格者を発表し本学からは40名が合格	9.11 (水)	日経 (朝刊) 他3社
79 2014年度国公立大学入試要項 名古屋大学	9.11 (水)	中日 (朝刊)
80 第11回全日本学生フォーミュラ大会：本学は総合4位	9.11 (水)	中日 (朝刊)
81 TPP 揺れる現場から 農業：竹谷裕之本学名誉教授は「米国は飛行機でタネをまくような大規模農場が標準。日本は猫の額ほどの農地が点在し、機械の大きさも違ってきめんにコストの差が出る」と語る	9.11 (水)	中日 (朝刊)
82 中日文化センター講座：「宇宙の天気 太陽と地球」草野完也太陽地球環境研究所教授、「オーロラの科学」塩川和夫同教授、「放射線帯と宇宙天気予報」三好由純同准教授、「惑星をとりまく宇宙環境と生命居住可能性」関 華奈子同准教授	9.11 (水)	中日 (夕刊)
83 本学は文部科学省が教育の国際化とトップクラスの外国人研究者の雇用を中心に改革を推進する国立18大学の1つに入った	9.12 (木)	日刊工業
84 SICE Annual Conference 2013開催：14～17日 本学にて行われる	9.12 (木)	日刊工業
85 東海の文学風土記 三田村博史34：八高留学・郁達夫の最期	9.13 (金)	中日 (夕刊)
86 大幸財団学術研究助成に蔡 大鵬高等研究院特任准教授が採択される	9.14 (土)	中日 (朝刊)
87 第27回博物館企画展「本物？作り物？ロウ細工？ 教育標本ムラージュ」特別講演会「新しくわかってきた皮膚疾患発生のメカニズムー皮膚バリア障害など」開催：26日 秋山真志医学系研究科教授が講演	9.14 (土)	中日 (朝刊)
88 「未来の風景をつくる」学生実施コンペ最優秀賞 脇坂圭一施設計画推進室准教授の研究室	9.14 (土)	朝日 (朝刊)
89 大澤俊彦本学名誉教授の研究成果を生かした肌の老化を防ぐサプリメントをめいらくグループが発売	9.14 (土)	中日 (朝刊)
90 深読み先読み：理系営業でニーズをつかむ 株式会社ノリタケカンパニーリミテド代表取締役社長小倉 忠氏本学卒業生	9.15 (日)	朝日 (朝刊)
91 Breakthrough [突破する力] 112：エアウィーヴ代表取締役社長高岡本州氏本学卒業生	9.15 (日)	朝日 (朝刊)

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**8月6日(火)～10月19日(土)**

場 所：博物館2階展示室、  
野外観察園セミナーハウス

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日（博物館）、  
土・日・祝日（セミナーハウス）

入 場 料：無料

### 第27回博物館企画展

「本物？作り物？ロウ細工？ 教育標本ムラージュ」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**9月25日(水)～1月31日(金)**

場 所：附属図書館医学部分館  
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00（平日）  
（1月6、7日は9:00～17:00）、  
13:00～17:00（土曜日）

休 館 日：日・祝日、  
12月28日(土)～1月4日(土)

入 場 料：無料

### 附属図書館医学部分館第5回ミニ展示会

「愛知医学校長 後藤新平

—『大風呂敷』と呼ばれた男の名古屋時代—

内 容：壮大な発想から「大風呂敷」と呼ばれた政治家後藤新平の足跡を愛知医学校時代を中心にたどる。卒業証書などの新収史料、貴重な文献、写真、絵葉書、生涯を描いたDVDを展示。



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

**9月28日(土)～11月4日(月)**

場 所：愛知県全域

### あいちサイエンスフェスティバル2013

内 容：県内の高等教育研究機関や社会教育施設と連携し、さまざまなサイエンスイベントを開催



[問い合わせ先]

産学官連携推進本部  
あいちサイエンスフェスティバル事務局  
特任助教 藤吉隆雄 052-747-6527

**10月1日(火)～11月2日(土)**

場 所：博物館2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

### 博物館トライボロジー遺産記念展示



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**10月19日(土)**

場 所：東山キャンパス

参 加 費：無料

### 第9回ホームカミングデイ

地域と大学で考える「生命の科学」

内 容：名古屋大学の集い、学術講演会、諏訪内晶子×兵庫芸術文化センター管弦楽団コンサート、名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室、理系女子コミュニティ「あかりんご隊」による科学実験、ウォーキングツアー、他



[問い合わせ先]

総務部総務課 052-747-6558

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 10月22日(火)

場 所：情報基盤センター4階演習室  
時 間：13:00～14:30  
定 員：40名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 平成25年度第7回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「大学における情報セキュリティ上の脅威とその対策」  
講 演 者：渥美紀寿（情報戦略室特任助教）

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

## 10月23日(水)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール  
時 間：18:00～19:30  
定 員：120名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 第94回防災アカデミー

講演題目：「幅を持った社会システムの構築を  
ーハードと、ソフトと、そしてシステムとー」  
講 演 者：越智繁雄氏（国土交通省水管理・国土保全局水資源部長）  
内 容：社会システム関連

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468



## 10月23日(水)

場 所：博物館3階講義室  
時 間：14:00～16:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 博物館特別講演会

講演題目：「世界遺産『熊野』－悠久の自然史と滝と深層崩壊」  
講 演 者：千木良雅弘氏（日本応用地質学会長）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 10月26日(土)

場 所：生命農学研究科附属フィールド  
科学教育研究センター  
東郷フィールド農業館  
(愛知郡東郷町)  
時 間：14:00～16:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター 東郷フィールド 第2回農場講演会

講演題目：「昆虫の模様と形の多様性」  
講 演 者：新美輝幸（生命農学研究科助教）

[問い合わせ先]

東郷フィールド事務室 0561-37-0200

## 10月26日(土)、27日(日)

場 所：博物館（10/26）、  
名古屋駅周辺、栄地区（10/27）  
時 間：13:30～16:30（10/26）、  
9:30～15:00（10/27）  
定 員：30名  
対 象：小学3年生から中学3年生とその  
保護者（中学生以上は個人参加可）  
参 加 費：1,000円

## 名古屋市科学館共催事業

### 平成25年度第3回地球教室

テ ー マ：「ナゴヤで化石をさがそう！」  
内 容：化石の断面について学習し、建物の石材からさまざまな化石を  
さがす

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**10月29日(火)、30日(水)**

場 所：野依記念学術交流館  
時 間：13:30～18:00 (10/29)、  
9:00～12:00 (10/30)  
対 象：一般  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
農学国際教育協力研究センター  
教授 浅沼修一 052-789-4232

## 農学国際教育協力研究センター 第14回オープンフォーラム

テ ー マ：「世界で活躍できるグローバル農学人材の育成に向けた大学の取組みの方向性ー多様なキャリアパスの開拓に向けた現状と課題ー」  
講 演 者：小沼廣幸氏 (国際連合食糧農業機関事務局長補)、他  
内 容：グローバル人材の育成に取り組んでいる大学の経験を共有、発表し、世界のグローバル化の中で国際的なスケールで活躍できる人材の育成に向かう大学が取り組む課題や方向性を議論する

**10月30日(水)**

場 所：文系総合館 7階オープンホール  
時 間：18:00～20:00  
定 員：30名  
対 象：本学および近隣の大学関係者  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
高等教育研究センター  
教授 夏目達也 052-789-5696

## 高等教育研究センター 第68回客員教授セミナー

講演題目：「経験から学ぶ力とリフレクション」  
講 演 者：松尾 睦氏 (北海道大学教授)  
内 容：熟達、経験学習、および経験から学ぶ力について各種データを用いて説明し、経験学習プロセスにおいて鍵となる「リフレクション (内省・振り返り)」に焦点を当て、学習を促すリフレクションのあり方について考える



**11月5日(火)～1月30日(木)**

場 所：博物館 3階企画展示室  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日、  
12月28日(土)～1月6日(月)  
入 場 料：無料

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

## 第28回博物館企画展「『氷壁』を越えて ーナイロンザイル事件と石岡繁雄の生涯ー」

[関連講演会]

場 所：博物館 3階講義室  
時 間：13:30～15:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**11月22日(金)**

講演題目：「ナイロンザイル事件発生のいきさつ」  
講 演 者：石原國利氏 (ナイロンザイル事件当時の登山パーティのリーダー)

**12月13日(金)**

講演題目：「厳しさと優しさ、愉快さが同居していた石岡さん」  
講 演 者：相田武男氏 (『石岡繁雄が語る 氷壁・ナイロンザイル事件の真実』の共著者)

**1月17日(金)**

講演題目：「ながら山登りの楽しみ方ー雲を読む、風を読む、光を読むー」  
講 演 者：三矢保永 (本学名誉教授)



**11月7日(木)**

場 所：カフェフロンテ  
時 間：18:00～19:30  
定 員：50名  
対 象：一般  
参 加 費：無料 (会場にてドリンク等の注文が必要)

[問い合わせ先]  
減災連携研究センター 052-789-3468

## 第30回げんさいカフェー Gen Science Café

講演題目：「南海トラフ巨大地震の『経済被害』をどう読むか」  
講 演 者：山崎雅人 (減災連携研究センター寄附研究部門助教)  
内 容：地域社会減災関連



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**11月8日(金)**

場 所：文系総合館7階  
カンファレンスホール  
時 間：13:30~18:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
国際言語文化研究科  
メディアプロフェッショナル論講座  
事務局  
gen-medijam@lang.nagoya-u.ac.jp

**メディアプロフェッショナルコース開設10周年記念  
国際シンポジウム「世界と対話する  
ー世界が日本を見る眼・日本が世界を見る眼ー」**

講演題目：「トヨタの国際発信力に学ぶ」  
講 演 者：小西工己氏（トヨタ自動車株式会社常務役員）  
講演題目：「3.11後、日本政府の対外発信力はどう変わったか」  
講 演 者：小野日子氏（内閣副広報官）  
講演題目：「日本は今も米国のアジアにおける最重要パートナーか」  
講 演 者：ハリー・サリバン氏（在名古屋米国領事館首席領事）  
講演題目：「ジャーナリズムの転換点としての3.11」  
講 演 者：山田哲夫（国際言語文化研究科客員教授）  
講演題目：「国際コミュニケーションとしての国家イメージ」  
講 演 者：中村登志哉（国際言語文化研究科教授）



**11月16日(土)**

場 所：博物館野外観察園、  
博物館2階展示室  
時 間：13:00~15:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
博物館事務局 052-789-5767

**博物館野外観察園見学会**

案 内：西田佐知子（博物館准教授）、他



**11月18日(月)**

場 所：ES 総合館1階 ES 会議室  
時 間：10:00~16:45  
定 員：80名  
対 象：愛知県内の大学・短大でメンタル  
ヘルスや学生支援などに関わる  
専門家および関係者  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
総合保健体育科学センター  
助教 古橋忠晃 052-789-5778

**総合保健体育科学センター**

**こころの絆創膏セミナー**

テ ー マ：「学生の居場所としての大学」  
講演題目：「最近の青年の変化」  
講 演 者：大饗広之氏（日本福祉大学教授）  
内 容：映画「扉のむこう」上映、学生支援についての  
講演と意見交換会



## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

### 11月24日(日)

場 所：ES 総合館 1 階 ES ホール  
時 間：12:30~18:00 (講演会)、  
18:30~ (アフターパーティ)  
定 員：100名 (超過の場合選考あり)  
対 象：一般  
参 加 費：無料 (アフターパーティは未定)

### TEDxNagoyaU

テ ー マ：「Bridge the gap」  
内 容：東海圏で初の学生による TEDx イベント。“大学”という場で価値あるアイデアを共有し、新たに生み出すことで“社会に貢献しうる人材を育成”し“大学のあるべき姿を提案”する。

[問い合わせ先]

TEDxNagoyaU 実行委員会  
tedx.unagoya@gmail.com

### 11月29日(金)

場 所：日本経済新聞社名古屋支社 3 階  
会議室 (名古屋市中区)  
時 間：18:30~20:00  
定 員：100名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

### 国際経済政策研究センター・キタン会 第18回名古屋ビジネスセミナー

講演題目：『『アベノミクス政権』の光と影』  
講演者：泉 宏氏 (政治ジャーナリスト)

[問い合わせ先]

経済学研究科附属  
国際経済政策研究センター 052-789-4945



名大トピックス No.245 平成25年10月16日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ  
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

テクノフェアでプラズマノ  
工学研究センターの装置の説  
明をする研究員  
(平成25年9月6日)



## 138 学部の誕生と草創期⑨ — 情報文化学部 —

最後に誕生と草創期を紹介するのは、1993(平成5)年10月1日に創設され、今年20周年をむかえた情報文化学部です。実に42年ぶりの新学部の誕生でした。その背景には、1990年代前半における大学教育の大きな改革がありました。

名大では1970年代以来、教養部の改革が進められていましたが、教養部を廃止して一般教育(教養教育)と専門教育を体系化した4年一貫教育という抜本的な改革はなかなか実現しませんでした。それが1990年代に入り、大学設置基準の大綱化がおこなわれ、教育制度に対する大学側の裁量の幅が広がりました。

名大はこれをうけて、1992年4月に教養部を母体とする大学院人間情報学研究科を創設したのち、1993年10月には教養部の廃止と情報文化学部の創設をおこないました。そして1994年度のカリキュラムから、4年一貫教育へ移行することになりました。

これによって、一般教育のみを担当する教員はいなくなり、旧教養部の教員は長く問題になってきた「研究と教育の乖離」の状況から解放されることになりました。そして、多様な専門分野を持つ旧教養部の教員を中心に、新たに学内外からも教員を招いて、来たる21世紀の高度情報化社会を見すえ、「情報」を軸とする文理融合型の学部として設置されたのが情報文化学部です。

情報文化学部には、自然情報学科と社会システム情報学科が置かれ、創設当初は各学科が6つずつの講座を持っていました。現在も学科構成は変わりませんが、内部は7つの教育系に再編され、そのうち3つを大学院情報科学研究科の教員が、4つを大学院環境学研究科の教員が担当しています。そして、創設時に掲げられた、「ソフトサイエンス」の確立と「真の情報リテラシー」をそなえた人材の育成という理念は、現在も学部の理念であり続けています。



1	2	3
4	5	



- 1 情報文化学部の創設を報じる『名大トピックス』第7号(1993年12月)。
- 2 1993(平成5)年10月29日に名古屋東急ホテルでおこなわれた創設記念祝賀会。鏡開きの壇上には、加藤延夫総長をはじめとする名大幹部のほか、芦田 淳元総長、飯島宗一元総長、文部省高等教育局長、元中部経済連合会副会長、中日新聞社長、朝日新聞名古屋本社代表が上がった。

- 3 創設記念祝賀会と同日におこなわれた看板上掲式。左から西尾理弘事務局長、加藤延夫総長、近藤哲生情報文化学部長、森 正夫学生部長(文学部教授)。校舎は、旧教養部棟を使用した。
- 4 情報文化学部第1回入学生の記念写真(社会システム情報学科、1年時)。100名の入学定員に710名もの志願者があり、他学部に比べ飛びぬけて高い倍率であった。
- 5 初期の授業風景(コンピューター実習・演習)。